

おおくら 議会だより



四ヶ村の棚田

第17回 おおくら写真コンテスト
入選作品「里山に生きる」
芳賀和代 氏 撮影



もくじ

4月臨時会	2P
6月定例会	3P
編集部特集	4～5P
一般質問	6～9P
棚田地域のこれから	10～11P
あれからどうなった?	12P

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報調査特別委員会 年4回発行
発行責任者／議長 鈴木君徳
印刷／共栄印刷株式会社

国保税引き下げへ

議案審議

今回審議された主な議案は

- ・専決処分11件
(令和2年度の補正予算、令和3年度補正予算他)
- ・国民健康保険税条例の一部改正
(保険税の負担見直し、税率の引き下げ)
- ・令和3年度補正予算審議
(一般会計、国保会計、簡易水道、下水道、診療所)
- ・ロータリー除雪車購入契約
(沼の台地区へ)
- ・スクールバス購入契約
(29人乗り一台を更新)

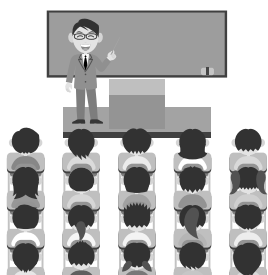
請願

3月定例会で継続審議となっていた「安全・安心で、ゆきとどいた教育実現につながる30人学級の実現」に関する請願を採択。国へ意見書の提出を決議しました。

請願者：山形市薬師町2-6-15

少人数学級をすすめる県民の会

世話人代表 高木紘一、伊沢良治、佐藤匡子

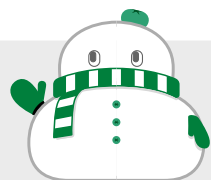


6月定例会が10日から11日にかけて行われ、専決処分の承認11件(令和2年度補正予算の他、新型コロナワクチン接種のための令和3年度補正予算案)、国保税軽減に関する条例改正、令和3年度補正予算案5件等の審議を行った。また、議案に先立ち3名の一般質問が行われ、活発な議論が交わされた。

補正予算決定

令和3年度補正予算5会計を審議・可決

	補正額	総額	主な補正内容
① 一般会計	1億3700万円	40億1700万円	コロナワクチン接種、肘折温泉誘客促進等
② 国保会計	10万円	3億8410万円	保険税の増減
③ 簡易水道	1680万円	1億4000万円	R458号線道路改良に伴う移設工事
④ 下水道	600万円	1億7100万円	R458号線道路改良に伴う移設工事
⑤ 診療所	▼14万円	2億3100万円	新型コロナウイルス関連



新たな議会構成決まる

4月30日に臨時会を開催し、議会の申し合わせによる、2年ごとの改選を行い、議長・副議長の互選の他各委員の互選を行い、新たな議会体制が発足しました。

気持ちを一新し充実した議会活動を進めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



議会組織構成一覧

令和3年5月1日から

議長 鈴木君徳(再)

副議長 海藤邦夫(新)

総務文教常任委員会(再編成)

委員長 長南正一
副委員長 矢口智
委員 海藤邦夫
委員 加藤忠己
委員 斉藤光雄

産業建設常任委員会(再編成)

委員長 早坂民奈
副委員長 佐藤勝
委員 鈴木君徳
委員 八鍬信一
委員 佐藤雅之

議会運営委員会(再編成)

委員長 佐藤勝
副委員長 矢口智
委員 長南正一
委員 早坂民奈

議会広報調査特別委員会(再編成)

委員長 矢口智
副委員長 佐藤雅之
委員 早坂民奈
委員 斉藤光雄

最上広域組合議員

鈴木君徳(再) 斉藤光雄(新)

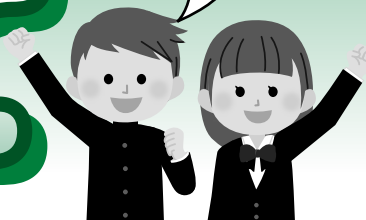
議会選出監査委員

佐藤雅之

中学生の提案

を活かして

PART 2



PR

＜30年後も美しい村であるために＞

● 村民や観光客に大蔵村の事をより知ってもらい、活気ある村にすること

＜具体的な提案内容＞

おおくらソング（大蔵村goo）	パンフレット	スライド
中学生ならではの歌詞と「中毒性」のあるリズムによる楽曲と映像を通して、耳だけでなく目で楽しみながら村の事を知ってもらう	● 肘折温泉やお土産、イベント ● 村公式キャラクターおおくらくん ● 村の特産品山菜を盛り込んだパンフレット作製	● トマト、温泉、地蔵倉、棚田をスライドショーに説明を入れて紹介 ● 歩いている人が立ち止まるように作った

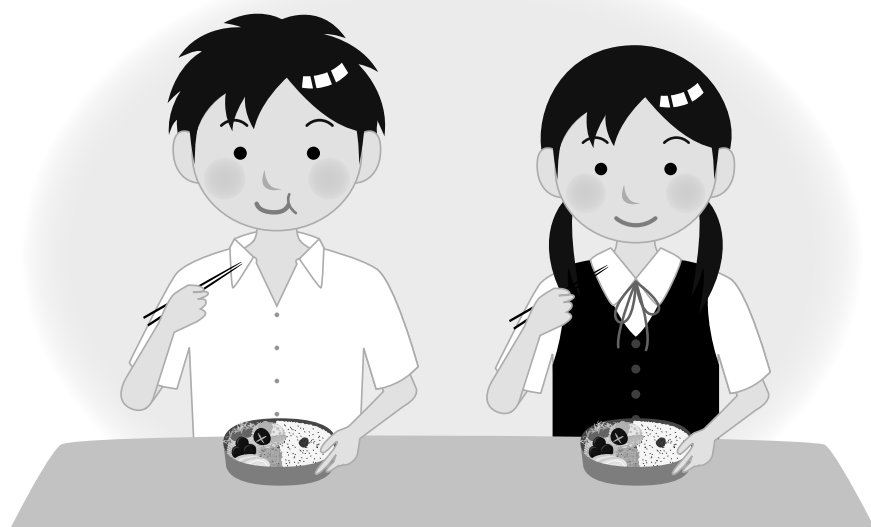
＜まとめ＞

- **ソング**……リズムや歌詞は中学生なりの思考を巡らせ、ミュージックビデオも歌詞に沿った画像を探し、オリジナルの動画で、私たちだからこそそのものを作り上げた。
- **パンフレット**……村民の人でも知らない名所を村民や、英語が書かれてあり海外の観光客の人にも伝えられた。
- **スライド**……村を紹介するうえで村についてもっと詳しく知ることが出来た。温かいコメントも貰い、だいぶ好評だったのでやりがいがあった。



コメント

実際、発表を見させていただきました。ソングはインパクトがあり、ユーモアにあふれ若さを感じた。パンフレットも英語の説明もあり、キャラクターや山菜の効能書きも添えて、見ていて楽しいものとなっていました。スライドも素晴らしく仕上がって、全てがこのまま埋もれさせるにはもったいない。是非ともCM大賞や新庄駅での村紹介に使っていただけたらと感じました。



食

＜30年後も美しい村であるために＞

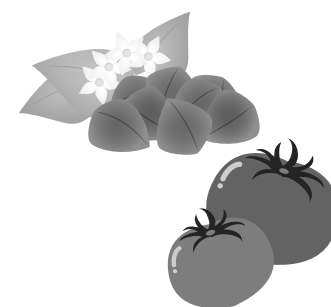
棚田サミットで提供するお弁当のパッケージ、お品書き、おかず

＜具体的な提案内容＞

パッケージ	お品書き	おかず
● ネーミング（Oh!くらっと弁当、トマこけ弁当、美しい村弁当）など ● はし……地元企業の本材を使ったはし、はし入れのデザイン ● 包装紙…「おおくらくんハンコ」を押した包装紙、お弁当のつつみ紙	● メニューを考え、字体やデザインを変えた3パターンを提案した。 ● お品書きの他に名所や特産品・歴史をミニカードにまとめた。 ● 前年度に作成したパンフレットを添えてはどうか	● これまでのメニュー紹介 ● トマト、そば、肉を使ったおかずとそのおかずのレシピをお弁当につける

＜まとめ＞

- たくさんの特産物や方言など大蔵らしいネーミングを提案できた。
- パンフレットを添える提案に好意的に受けとってもらえることが出来た。
- 「村内の飲食できる施設で通年提供させてもらっては」のアイデアを頂いた。
- ミニカードに情報をコンパクトにまとめるよう改善が必要。
- 食べやすさや、コスト、冷めても美味しいなど、いろんな点から考え、採用されるには難しいと感じた。



コメント

ネーミングはインパクトがあり、村の紹介も兼ねる包装紙は、実際に活用出来たら良いアイデアだと感じました。お品書き一つで、良くも悪くもなるものです。そこにミニカードが付いていれば食べる時楽しくなりますね。

村特産品を使用しておかずづくりは、専門家でも難しいので、考え、実践して体験できたことは必ず将来役に立つはずですよ。

問1 「一人暮らし老人等除雪扶助」や「灯油購入費支援事業」などの福祉給付を行う際、年齢や世帯構成、住民税非課税などの対象要件がある。制度を適正に運用するためにこれらの要件は当然必要。ただ、住民税課税が非課税かで一律に判断すると、わずかに課税となったために福祉給付の対象にならなかったり、前年と収入が同じでも税制改正で住民税非課税世帯だ

答1 福祉事業は、公平に判断された基準をもとに給付を行っている。「住民税非課税世帯」との要件は村だけでなく国や県の定める要件にも取り入れられてい

福祉給付の所得要件等をより柔軟に
村長 当面は現在の要件を踏襲しつつ、社会の動きを見据え検討



佐藤 雅之 議員

問2 国も、住民税課税世帯であっても非課税世帯に準じた一定の低所得者には柔軟に対応している制度がある。かつて「老年者控除」などが廃止された際は収入が変わらないのに制度上、課税世帯になってしま

う世帯もあった。村はそのころ「一人暮らし老人等除雪扶助」を一定の課税世帯にも給付するなど、柔軟に対応してきた経過もある。また、現在は高齢者の就労も目立ってきている。福祉給付を得るために非課税限度に就労を抑えてしまう

答2 世の中は動いている。大蔵村独自の施策として、



村政を問う

一般質問
6月
定例議会



6月定例会
一般質問の状況

一般質問とは？

村政全般に対して議員が質問し、意見を述べ村政をただしていくもので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。

3議員が一般質問

7P 佐藤 雅之 議員

○福祉給付の所得要件等をより柔軟に

8P 早坂 民奈 議員

○新庁舎は既存の建物を利用

9P 斉藤 光雄 議員

○豪雪の大蔵村で暮らす
○農家以外の家庭菜園ごみへの補助を





早坂 民奈 議員

新庁舎は既存の建物を利用 村長 学校は使わない

問1 昨年の豪雨災害以来、庁舎建設の声が多く聞かれる。

新庁舎移転の進捗状況はどうか。中心地である清水地区からの移転は、最も大きな課題ではないか。そこで提案する。役場、中央公民館、診療所等の公共機関を、小学校・中学校の建物を利用してはどうか。現在小学校は災害時の対策本部、避難所になっており、立地的に一番良い場所ではないか。中学校は診療所、母子支援センターや福祉センタ

答1 清水・合海地区からの移転は考えていない。学校利用も検討したが、学校

移転新築を早期に行わなければならない。学校建設は、村単独での事業は困難であり、計画だけでも、5・6年にかかる。村負担の予算も相当額用意する必要があり、財政的にも困難。補正予算で庁舎移転候補地の地質調査を計上し、その結果を受け、検討し、早期に移転先を決定したい。将来的には保育所も含めた教育施設全体の整備も行わなければならないが、まずは災害対応の拠点となる役場庁舎の移転を優先する。

問2 検討委員会のメンバーと会議は何回行ったか。

答2 H29年11月から各課の中堅メンバーで5回、その後、課長会にて3回行い、庁舎は建て、清水地区からは出ないことを確認。以前から議員の皆様には説明し、中学校の改修についても承認を頂いており、今回の質問は実際にそぐはず、私から言わせれば学校利用の質

問は出てこない。

問3 清水地区から出ないのは承知している。だからこそ学校利用と提案したのである。改めて学校は使わないと断言するのか。

答3 断言する。

問4 検討委員会に住民、議員の参加は、又周知はどのようにし、専属の部署は設けるのか。

答4 素案が出来、候補地の調査結果が出来たら参加して頂く。必要に応じて周知し、専門の部所も設ける。

問5 保育所も老朽化して心配だ。庁舎と並行しての建設は。

答5 予算上出来ない。



大蔵小学校と大蔵中学校



齊藤 光雄 議員

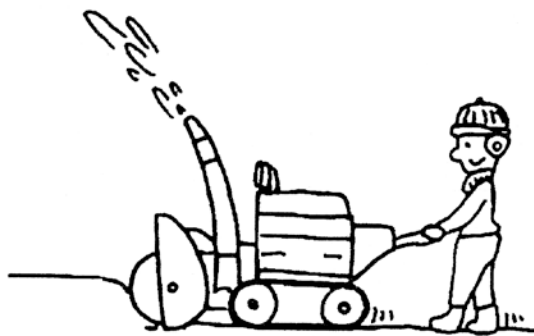
豪雪の大蔵村で暮らす 村長 補助を検討する

問 毎年の様に豪雪災害クラス

の雪が降り、この時期によく聞かれる事が雪の片付け・雪下ろし、日用語の様にささやかれます。近所において関東からの移住者があり、年金も高額なため灯油等の補助も受けられず経費が高むなら、関東に戻りたいと常々ささやかれる様になりました。

あれば容易になると考えます。また平成7年以来、今年度初めて補助対象となった、小型除雪機械補助要綱を変え幅広く共助体制が促進されるよう見直していただき、大蔵村に住んで良かったと思われる村にすべきでは。

答 個人への小型除雪機械購入についての補助制度として、県内では尾花沢市や大石田町、村山市のなどで設けておりますので、そうした先進事例を参考に、今後検討する。



農家以外の 家庭菜園ごみへの補助を

村長 自己責任で負担すべき

問1 現在農家（農業組合等の組合員）に対して年2回のビニール・プラ等に廃棄物処理の補助金を出している。今春の防災無線による野焼きをしないでくださ

いとの気象状況を見据えた防災無線啓発により火災が発生しておりません。また農家以外の方より家庭菜園等で発生するビニール・プラ等の廃棄物処理に農家と同様の補助金をとの意見があります。

答1 廃棄物の特定と排出量の確定、またそれに要した費用を確定しての補助と

いうことになると、手数料をかけても補助効果を得ることとは非常に少額と判断する。各家庭からの生活系廃棄物は、自己の生活で消費したもので、廃棄物の減量化も踏まえ、自己責任において負担すべきと考える。なお、ビニール等を生活系廃棄物として処理する際には、70センチ程度に裁断の上、処理くださるようお願いする。

問2 住民にごみ処理場の見学研修等を開催し、適正なゴミ出し行動に繋げては

答2 処理方法の周知・研修について出来る限りその方向に向けて実施して行く。



棚田(中山間)地域のこれから

棚田サミット
開催中止を受けて

基調講演：棚田地域の暮らしと大学の関り（早稲田大 落合基継准教授）

研究発表：四ヶ村の棚田での活動報告と提案（早稲田大社会科学部 農村デザイン研究ゼミの学生）

分科会：4つの分科会に分かれて開催

「第1分科会」棚田の保全 ～再生・整備～（棚田学会会長 山路永司）

「第2分科会」棚田の活用と継承 ～棚田地域で外部人材ができること～

（早稲田大 落合准教授）

「第3分科会」棚田のこれから ～棚田地域のスマート農業を考える～

（農水省スマート農業実践プロジェクト担当者）

「第4分科会」棚田地域振興法成立の背景とその活用

（全国棚田連絡協議会顧問 中島峰広）

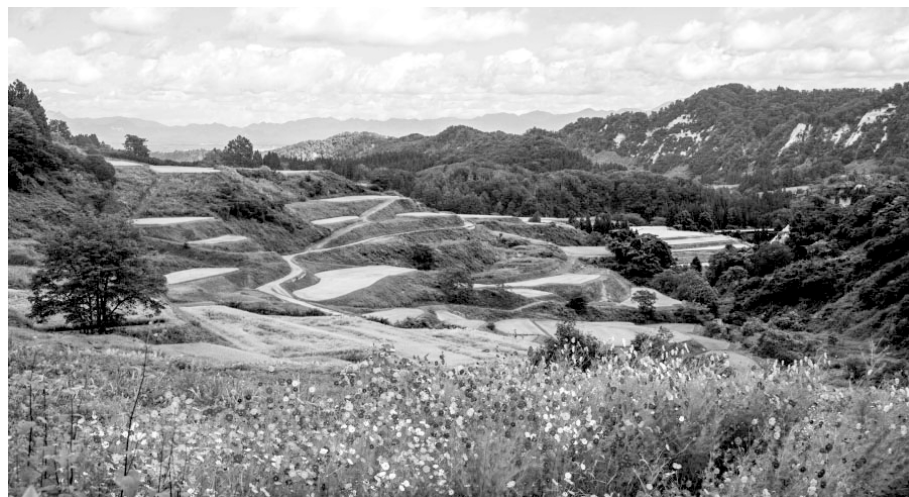
これから

分科会の4つのテーマを見てみると、四ヶ村の棚田を含めた中山間農業のこれからの姿が浮かんできます。棚田を再生し継承するためのハード対策、外部人材の活用などのソフト対策、最新の技術を活用した新しい農業。

棚田の再整備はすでに実践も含めて研究が進んでいますし、最新の除草機を導入し実践を進めているとの報せも聞いています。外部人材の考えを取り入れ様々な可能性を追求することも意義深いことだと思います。直接顔を合わせて語り合うことは叶わないとしても、様々な考えがこの大蔵村に届いてくれることを願っています。

現在、平場では大区画基盤整備事業が進められています。事業に合わせて農地の集約化が進められ、同時に担い手の選択が問われることも含め新たな農業が形作られています。棚田(中山間地)の農業も新たな技術研究が実を結び、きっと未来に続く姿が形作られることを願っています。

「願えば必ず叶う」と信じていきましょう。



9月に全国の方々にお見せしたかった四ヶ村の棚田秋の風景
第12回 おおくら写真コンテスト 最優秀賞作品「秋色の棚田」 黒坂祐治氏 撮影

本年9月に開催予定だった、「棚田サミット」が当村での本開催が中止とな

りました。一昨年から準備を進め、昨年の9月開催を目指していたところに、新型コロナの影響をともに受け一年先送りとしたのですが、皆さんご存知の通りコロナ禍の終息が見えず中止となった訳です。

一昨年に「棚田サミットの誕生まで」昨年春に「棚田サミットの誕生から現在まで」を紹介し、その3として、開催に合わせ「課題と展望」について記事を準備していた所ですが側面支援叶わずという面で大変残念に思っています。

しかし、本開催が中止になったからと言ってゼロになった訳ではありません。過去25回の開催を通して全国の多くの関係者が棚田振興について研究を重ね、大蔵村の「四ヶ村の棚田」についても多方面からの研究が進められていることも事実です。早稲田大学の落合基継准教授を中心にした社会科学部農村デザイン研究ゼミの学生はもちろん、サミット開催に合わせて各分科会を担当する講師を中心に準備が進められてきていたのです。

開催内容を振り返る

— 改めて、中止となった開催概要を見直してみます —

テーマ：「2021棚田再生」中山間農業の新たな出発…灯そう地域の明かり

開催趣旨：棚田は、そこに暮らす人々が、耕し育て「生活の糧」として生きてきた歴史がある。この営みは、日本の原風景であるとともに多面的に持つ機能は長い時間をかけて培われてきた貴重な財産であり、私たちは今後も絶やすことなく続けていかなければならない。一方、棚田の特殊性もあって、耕作放棄地や担い手不足、離農などといった現実があるのも確かである。このような中において私たちは、棚田を守ることにとどまらず、暮らしを支える生業として、中山間地域での農業と正面から向き合い再考していかなければならない。

— 後 略 —



第8回 おおくら写真コンテスト 入選作品「ほたる火コンサート」 鈴木貞治氏 撮影

あれから、どうなった?

検証・提言

No.8

介護予防・健康づくりで保険料引き下げへ

2000年（平成12年）に始まった介護保険制度。それから20年。

介護保険制度は3年を1期として時々の見直しを。平成18年度からは介護予防の重視を平成24年度からは地域包括ケアの推進、24時間対応の定期巡回や随時対応サービスの創設、平成27年度からはサービスの効率化と保険料負担の増大抑制など様々な変貌を遂げてきた。

介護サービスと共に気になるのが保険料。65歳以上の方は原則年金から天引き。この保険料額は、所得などによって9段階に区分。

大蔵村では、平成24年度に保険料を据え置いて以降は右肩上がりが続いた。

議会の一般質問でも取り上げられ、村は、交流サロン開催などで健康づくりを行い、心身機能の維持・改善を図り、介護予防と生活支援に力を入れると答弁。

今年、3月議会で令和3年度からの村介護保険第1号被保険者の保険料額が決まりました。基準額第5段階で月額5,800円へと800円の引き下げ（下の表）。

今回、県内14市町村では保険料が引上げられ県内平均額が月額6,110円となるなかで、村保険料は平均以下に引き下げられた形。

介護予防と健康づくりに力を尽くした村、村民の努力の結果で保険料の引き下げへ。



保険料の直近比較（65歳以上の保険料は市町村ごとに決めます）

	第7期 (H30～R2年度)	第8期 (R2～R5年度)	差 額
基準額（第5段階）月額	6,600円	5,800円	△800円
上記第5段階年換算	79,200円	69,600円	△9,600円

※基準額（第五段階）は、本人が住民税非課税の人です。

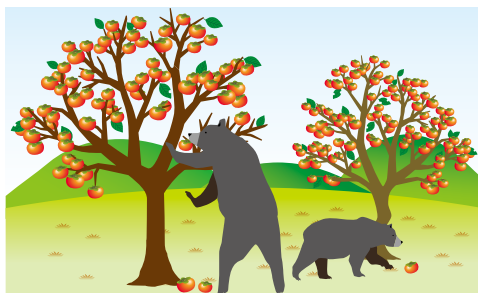
議会広報調査 特別委員会

委員長 矢口 智
委員 佐藤 雅之
委員 早坂 奈
委員 齊藤 光雄

（斉藤光雄）

令和2年の議会広報の後書きで合海大坪線の茅野の畑地に熊の出没の危惧について記しました。

今春の雪解けも終わり畑地周辺の片付け作業時に、柿の木が今年は沢山の雪により折れているのに気づき柿の木を見ますと熊の爪痕がくつきり・上を見ますと熊が柿を食するときの熊棚が作られ、いよいよ茅野の地にも熊の出没が現実的になってきたと感じました。また日中には見ることのできなかったキツネ・タヌキ・ハクビシンの出沒その上、季の里団地の上の三の台にも箱罠（はこわな）設置を確認したときは、熊との遭遇はぜひ避けたいと感じました。



後書き